加山興業のサステナビリティ戦略

加山　順一郎　（かやま　じゅんいちろう／加山興業株式会社　代表取締役）

弊社の経営理念と環境に対する考え方

弊社が創業した1960年代は、戦後の経済復興及び高度経済成長期に差し掛かる一方、廃棄物をはじめとする環境問題が深刻化してきました。そのような社会課題に対応するために廃棄物の法制度が確立されました。環境負荷に関する取り締まりが強化され、当時の環境問題の改善が見受けられました。しかし、社会の行動変容や技術革新等で便利な製品が一般に流通することで、多種多様な廃棄物が排出され、埋め立て処分場の逼迫、資源が枯渇するといった課題や、気候変動に関する新たな課題が顕在化するようになりました。

そのような背景の中で、弊社の存在意義を先代の「廃棄物を適切に処理することが真に豊かな未来へ通じる道であり、よりよい環境を残すことが我々の使命である」という意思を受け継ぎ、お客様満足を追求し、快適な環境を創造し、未来も満たされるサービスを提供し続けることを日々果たすべき使命として、全従業員で取り組んでいます。

具体的には、弊社の中長期的なあるべき姿について、「Our Planet, Our Home」＝私たちの惑星（地球）は私たちの家である。加山興業は「緑あふれる」＝豊かな自然環境、「クリーンな」＝廃棄物のない、自然エネルギーの利用、「日常」＝ありふれた毎日こそが幸せであり、地球に暮らす全ての生き物が共存共栄し、幸せに暮らすことができる世界の実現を目指すというビジョンを立てました。まずはできること、やらないといけないことを着実かつ意欲的に取り組みながらも今後の社会のイノベーションを柔軟に取り込み、社会に対してライフスタイルの行動変容を促していきながら、ステークホルダーの期待に対して着実に応えていくことで、恒久的に社会から必要とされる企業であり続ける方針としました。

改めて社会から要請されている部分と自社が貢献できる部分を勘案し、60期に当たる2020年度に、ビジョン実現に向けた戦略的重要課題、中長期目標を策定しました。

事業内容・特色

自社の戦略的優先課題のうち、以下で代表的なプロジェクトを紹介します。

〇適正処理及び循環型社会

弊社は循環型社会を廃棄物の中間処理業者として推進していくべく、リサイクル率を向上させるために破砕選別施設、焼却・乾燥施設、固形燃料RPF施設、銅ナゲット製造機、蛍光管再生プラント等を導入し、多品種・小ロットの廃棄物も積極的にリサイクルすることで廃棄物処理のワンストップサービスを行っています。今後については、現時点では処理困難物とみなされている太陽光パネルのリサイクル設備の導入によって、資源循環と脱炭素を両立できるようなビジネスモデルを追求していきます。

〇脱炭素

「脱炭素」を戦略的優先課題の一つとして位置付けて、自社の経済活動で脱炭素化を進めるために、SBT（「科学と整合した目標設定」）に基づいた取組の強化を進めています。

具体的には、気温上昇を1.5℃に抑制するために、2018年度を基準に年間4.2％ずつCO_2を削減するシナリオと整合する形で、2030年にはスコープ1及びスコープ2において50％削減、スコープ3における排出量

の把握と削減に取り組み、2050年には実質排出量をゼロにするといった意欲的な目標を立て、事業活動に伴うCO_2の削減対策を講じています。

基準年の58期には、スコープ1及びスコープ2は19,378(t)でしたが、60期には、10,819(t)と削減率は約44%になりました。スコープ1の削減要因としては、以下のような対策を講じています。

①購入した燃料の燃焼に伴う排出については、より排出係数の低い燃料の採用（重油⇒都市ガス、軽油⇒GTL（液化ガス））

②非エネルギー起源（廃棄物の焼却）に伴う排出については、顧客から預かった廃棄物をリサイクルできるように光学選別機等の導入により選別強化

③スコープ2では、自社の経済活動に伴う電力を従来の化石燃料由来から再生可能エネルギー由来に切り替え継続、社屋や各プラントに太陽光発電システム導入

今後は、どうしても焼却処理せざるを得ない廃棄物（医療系廃棄物や有害廃棄物等）を勘案して増設した焼却炉を稼働させるため、CO_2排出が大幅に増える見込みです。今後意欲的な目標達成を実現するために、引き続き排出係数の低い燃料の使用、焼却した際に発生するCO_2排出抑制に寄与する技術等、現時点では困難な課題の解決をしていく必要があるものの、今後のイノベーションが出てきた際に、それを採用できる体制を進めていきます。

○自然共生社会への対応

環境課題解決企業として、地域の生態系等の保全を通じて、自然と地域の共生に貢献していこうという思いから「ミツバチプロジェクト」を2014年から実施しています。ミツバチは半径約3kmの花や樹木にかなり影響される繊細な生物です。仮に環境負荷がある場合、ミツバチは生きることができる環境とみなさず活動しません。周辺に対して環境負荷がかかっているかどうかモニタリング機能を果たしてくれるミツバチを自社の敷地内で育てることで、弊社の経済活動が負の影響を及ぼすことのないように運営できており、ミツバチから始まる生物多様性に大きく貢献しています。

ミツバチから採れた蜂蜜は、採集イベントの開催、地元の和洋菓子店舗と連携した商品開発等、蜂蜜を通じた地域振興も推進しており、今後も継続していく方針です。

○地球共生社会

廃棄物処理やその他環境保全事業に携わる環境課題解決のプロとして、2012年より小学4年生を対象に環境授業の取組を開始しました。ごみの分別やリサイクルの重要性について未来を担う児童生徒にごみや環境への課題意識を持ってもらい、授業で学んだことを子供たちが家に帰って家族の方と話をすることで、大人も環境問題に気付き、行動を起こすことに繋げて欲しい。そんな強い想いのもと実施しています。担当教員との授業進度の把握、内容のすり合わせを行って実際の教育現場のニーズを拾いながら、一緒になって授業をプログラム化しています。

さらに、学生が考える問題を取り入れることで非認知能力が高まることを期待し、自社オリジナルの教材制作・提供も行っています。60期では、20件（受益者1,318人）実施しました。

地球規模の環境問題を解決するには、全員で取り組むことを今後も継続し、社会全体で持続可能な発展を推進できるように最大限向き合っていきます。

詳細については、加山興業サステナビリティレポートをご覧ください。
https://www.kayama-k.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/11/kayama-sustainability_report-2021.pdf